

経済研究所 公開研究会等の記録 2020年度

公開研究会

主催	フランス経済社会研究会
日時	2021年3月29日(月) 13:00~15:00
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	フランスにおけるスタートアップに関する近年の動向
報告者	五十畑 浩平 客員研究員(名城大学経営学部准教授)
概要	五十畑浩平客員研究員より、まず、インターナショナルの元祖とも言えるフランスのスタートアップの沿革について概要説明がなされ、さらに、その近年の諸改革と現状の解説が行われた。報告の前半では、そもそもスタートアップはエリート養成の高等教育機関＝グランゼコで実施されていた独自の報告方法である点が指摘された。1960年代には、スタートアップの一般化・大衆化が推進され、大衆教育機関としての大学においてもスタートアップが広く採用されるようになった実態を紹介された。そして報告の後半では、2000年代後半以降、あまりにも拡充してきたスタートアップをむしろ規制して、その価値の向上が図られている今の状況について論じられた。①今日のスタートアップが「偽装雇用」となっているケースもあるため学生団体がデモを実施しているにも関わらず実際の改善策は遅々として進んでいない点、②研修生に関する「労働者性」の問題が取り上げられている点、などが示された。

研究会

主催	現代企業制度研究会
日時	2021年3月29日(金) 13:00~15:00
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	1. 「金融商品媒介ビジネスと金融システム」の視点 2. 「動態的研究環境を踏まえた『リスクの特定・評価』、『リスク管理』の視点」 3. 「マルチチャネルチャイジの両面市場性に関する研究」および「マーケティング・チャネルの硬直性：機敏なチャネル転換を阻む原因の探求」、他、執筆計画 4. Convergence of corporate governance 5. Public Personal Management 6. 航空機産業の戦略展開 7. 貿易・対外直接投資の変化：グローバルゼーションからRCEPを含む新展開へ 8. 国際経済法・グローバルな経済活動に関わるルール(ソフト・ロー)の形成 9. 中国における人的資源戦略の普遍性と特殊性、 10. サプライチェーン(SC)の経済分析 11. 地域経済システムと産業クラスター戦略 12. ダイナミックケル・パリティの研究 13. 日本人グローバルリーダーの分析 14. アジアにおける人的資源の分化的アプローチ

報告者	1. 井村 進哉 研究員(経済学部教授) 2. 藤原 茂 客員研究員(有限責任監査法人トーマツ顧問) 3. 北島 啓嗣 客員研究員(福井県立大学経済学部教授) 4. 油谷 博史 研究員(国際経営学部教授) 5. 張 用振 研究員(中央大学国際経営学部准教授) 6. 関林 享平 客員研究員(三菱商事テクノス(株)アドバイザー) 7. 陳 健安 研究員(国際経営学部教授) 8. 国松 麻季 研究員(国際経営学部准教授) 9. 申 淑子 研究員(国際経営学部教授) 10. 楊 川 研究員(国際経営学部助教) 11. 王 玲玲 研究員(国際経営学部助教C2) 12. 野間口 隆郎 研究員(国際経営学部教授) 13. 木村 剛 研究員(国際経営学部教授) 14. 舩川孝 氏(国際経営学部教授)
-----	---

年度末合同にかわり研究員・客員研究員・研究員幹事によるオンラインでの研究交流会を実施し、2020年度の研究会活動(研究会、国内調査)の経過・進捗状況が幹事から説明され、各研究員の研究・テーマ、進捗状況が上記のように14名(うち1名は文書報告)の研究員、客員研究員から報告され、質疑がなされた。①「金融商品媒介ビジネスと金融システム」、②「動態的研究環境を踏まえた『リスクの特定・評価』、『リスク管理』の視点」、③「マルチチャネルチャイジの両面市場性に関する研究」および「マーケティング・チャネルの硬直性：機敏なチャネル転換を阻む原因の探求」、他、執筆計画、④Convergence of corporate governance、⑤Public Personal Management、⑥航空機産業の戦略展開、⑦貿易・対外直接投資の変化 グローバルゼーションからRCEPを含む新展開へ、⑧国際経済法・グローバルな経済活動に関わるルール(ソフト・ロー)の形成、⑨中国における人的資源戦略の普遍性と特殊性、⑩サプライチェーン(SC)の経済分析、⑪地域経済システムと産業クラスター戦略、⑫ダイナミックケル・パリティの研究、⑬日本人グローバルリーダーの研究、⑭アジアにおける人的資源の分化的アプローチ以上の報告・質疑は、いずれも多面的な視点からの現代企業への制度を構成するものであり、2021年度におけるいくつかの研究会、読書会、および調査の具体化が検討された。

公開研究会

主催	アジアの環境と政策研究会
日時	2021年3月19日(金) 15:00~16:45
場所	オンライン会議システム(Zoom)
テーマ	構造方程式モデリングの統合的理解に向けて

報告者	小杉 考司 氏(専修大学人間科学部教授)
-----	----------------------

今般、データ分析を行うことは、経済理論や仮説の検定など実証分析を行う上で、必修の事項となっている。今回の研究会では、構造分析の方法に関する考え方、実際の応用可能性を含めた基本的なプレゼンテーションを小杉先生に行ってもらった。特に、構造分析について因果分析、因子分析の視点から考察し、多変量を的確化する分析の枠組みを提供していただいた。また、因果分析の統合的理解と応用についての知見を共有することができたと考える。約1時間でのプレゼンテーションは、質疑応答を行った。

公開研究会

主催	非線形経済理論研究会
日時	2021年3月19日(金) 14:00~17:00
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	1. 「景気循環論における微分方程式の使用法」 2. "On Dynamics of a Three-Country Kaldorian Model of Business Cycles with Fixed Exchange Rates" 3. "The Chaotic Monopolist Revisited with Bounded Rationality and Delay Dynamics"

報告者	1. 村上 弘毅 研究員(経済学部教授) 2. 浅田 統一郎 研究員(経済学部教授) 3. 松本 昭夫 研究員(経済学部教授)
-----	---

この研究会は、松本昭夫研究員(本学経済学部教授)の定年退職を記念する研究会である。各報告の要旨は、以下のとおりである。いずれも報告も、経済学モデルにおける均衡解の安定性および不安定性、循環的変動、オオの動的変動的存在について、数学的解析と数値シミュレーションによって分析している。

1. 報告1(村上弘毅)は、マクロ経済学の本質的な問題である景気循環理論における重要な数学的分析用具である微分方程式の使用法について、解の存在条件、分岐点の存在と一意性の条件、経済モデルの適用例に留意しつつ紹介している。  
2. 報告2(浅田統一郎)は、カルダリア型の非線形景気循環モデルを国際貿易と国際資本移動によって拡張された、8次元(8変数)の非線形差分方程式システムによって定式化される固定国際資本移動モデルに拡張し、その動的挙動(数値シミュレーション)によって検討されている。  
3. 「On Dynamics of a Three-Country Kaldorian Model of Business Cycles with Fixed Exchange Rates」は、ミクロ経済学における独占モデルによる固定国際貿易、固定合理性、意思決定のタイムラグを導入した非線形モデルの微分方程式(微分-差分混合方程式)によって定式化し、その動的挙動を数学的解析と数値シミュレーションによって分析している。

公開研究会

主催	国民生活問題研究会・ジェンダー研究会
日時	2021年3月9日(火) 13:00~16:05
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	1. 児童虐待発生の「社会要因」に関する分析 2. 日本における生活保護受給者層について—その性別、職業種、収入に着目して—

報告者	1. 宮寺 良光 客員研究員(岩手県立大学社会学部准教授、国民生活問題研究会所属) 2. 吉村 善久 研究員(中央大学大学院経済学博士後期課程、ジェンダー研究会所属)
-----	--

今回は、国民生活問題研究会・ジェンダー研究会が合同でオンライン研究会を開催した。第一報告は、詳細な聞き取り調査と実証分析に基づきながら、児童虐待発生の「社会要因」に関する分析を試みたものであり、具体的には、児童虐待による死亡事例のデータを基にしたミクロ的な視点から発生要因の分析が行われており、今後のマクロ的な視点への視察につながるものが期待できるものであった。報告者の質疑では、児童虐待や社会的排除の概念分析や、長期的な観点からみた児童虐待の状況の変化に関する質問などが出された。  
第二報告は、複合能力者の少い生活保護制度において、就労支援を主とした「自立支援」導入後の被保護者の変化を明らかにするために、厚生労働省「被保護者調査」を用いて静態的な事実関係から実態を明らかにしたものであり、活発な質疑がおこなわれた。また、保護者の傾向について分析・検討を深めていただいた方が良いのではないか、「労働力調査」と「被保護者調査」それぞれの雇用形態の定義について確認いただいた方が良かったのではないか、論点をシンプルに絞り込んだ方がより分析を深められるのではないか、といったアドバイスも得られた。二報告ともに、幅広い分野の研究者から多くの示唆に富んだコメントを得ることができた点で、合同研究会の「強み」が十分に発揮されたといえる。

公開研究会

主催	国際経済研究部会
日時	2021年3月1日(月) 14:50~18:00
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	1. グローバル化の後退と日本経済の課題 2. トランプ=習近平時代の世界経済とEUの通商政策 3. 覇権システムから見る米中対立-産業大国と通貨大国の戦い 4. 米国の通商政策の起源と中央政府の財源確保 5. トランプ時代の国際収支と為替相場の決定要因

報告者	1. 粟林世 客員研究員(元中央大学教授) 2. 田中兼善 客員研究員(東北大学名誉教授) 3. 坂本正弘 客員研究員(日本国際フォーラム上席研究員) 4. 長谷川聡哲 客員研究員(中央大学名誉教授) 5. 矢野生子 客員研究員(長崎県立大学経営学部教授)
-----	--

当該研究会は、本学部の共同研究期間の成果として出版した叢書『トランプ時代の世界経済』の各章執筆から、研究会の部会内での共有を行って頂くという目的で企画されたものである。報告者と論題の一覧は以下の通りである。

第一報告「グローバル化の後退と日本経済の課題」  
粟林 世(中央大学経済研究所客員研究員)  
第二報告「トランプ=習近平時代の世界経済とEUの通商政策」  
田中 兼善(中央大学経済研究所客員研究員、東北大学名誉教授)  
第三報告「覇権システムから見る米中対立-産業大国と通貨大国の戦い」  
坂本 正弘(中央大学経済研究所客員研究員、日本国際フォーラム上席研究員)  
第四報告「米国の通商政策の起源と中央政府の財源確保」  
長谷川 聡哲(中央大学経済研究所客員研究員、中央大学名誉教授)  
第五報告「トランプ時代の国際収支と為替相場の決定要因」  
矢野 生子(中央大学経済研究所客員研究員、長崎県立大学経営学部教授)

報告者からは、執筆段階の研究成果をベースとして、その後の研究会の進捗も含めた報告が行われた。トランプ時代の経済と、その後の経済の流れを総括する。大変有益な研究会であった。研究会への参加者には報告者を含め17名であった。各報告、討論を含め30分という短い時間ではあったが、それだけの論題について活発な議論が行われた。研究会には有意の懇話会(オンライン)も開催され、部会内の情報共有と懇親を深める大変良い機会となった。

公開研究会

主催	国際経済研究部会
日時	2021年2月1日(月) 16:30~18:00
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	吉見 大洋 研究員(経済学部准教授)

報告者	Export Experience and the Choice of Invoice Currency: Evidence from Questionnaire Survey for Japanese SMEs
-----	--

吉見研究員より、中小企業の輸出経験が決済通貨の選択に与える影響に関する報告が行われた。報告のあった研究は、中央大学共同研究プロジェクトおよび、科費基金8課題「輸出入者間の交渉および、輸出経験、貿易信用が決済通貨選択に与える影響」の支援を受けて実施されたものである。本研究では、2019年末から2020年1月にかけて実施された、日本の中小企業向けアンケート調査の結果を用いた実証分析が行われている。ここでは、輸出経験(年数)が長くなるほど、輸出における決済通貨を日本から外国通貨へ変更する可能性が高くなることを示した。この分析結果を踏まえて、輸出経験を積むほど、企業は為替リスク管理を含めたノウハウを蓄積するもので、むしろ輸入企業の需要を喚起しやすい外国通貨を用いるようになるという解釈が示された。他方、輸出企業の交渉力が高い場合は、外貨建て決済から本国通貨建て決済へのシフトが起るという点も指摘された。

研究会への参加者は報告者を含め10名であり、多くの議論が交わられた。例えば、分析の元となるアンケート調査の標本分布が母集団分布とどの程度整合的かに関して確認する必要性が指摘された。また、現段階では輸出経験の年数のみが説明変数として使われているが、輸出経験の質についても配慮する必要性なども指摘された。

公開研究会

主催	現代政策研究会
日時	2021年1月13日(水) 15:00~17:15
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	西山 圭太 氏(東京大学未来ビジョン研究センター客員教授)

報告者	相対化する知性～人工知能を理解することが、なぜDXと哲学に役立つのか～
-----	-------------------------------------

西山圭太氏が昨年出版された『相対化する知性』を展開している「同型論」の解説に始まり、それが現代政策を志すうえでどのような思考の転換をもたらすのかを發表していただいた。現在は、宇宙の発生から(もしあるとしたら、その終焉)と向かう途中の段階で、適度なエントローピーを保ちつつ多様なパラダイムが生み出されている状況である。ここでは、至るところに階層構造が生じ、豊かな情報が発見される。オープン・リアクティングが明らかにしてきたことは、人間が世界を知るという営みもまた、脳が階層構造を持つことで、知識の對象となるものから異なることである。リストンの自覚もエネルギー処理の制度や、脳を含めた生命体は驚きを最小化するような行動を起しているが、マルチプロセスと呼吸は異なる境界を形成することがかわっている。これが階層化を起している。これは政策的にはどのような含意を帯びているのか。特に、階層化(レイヤー構造)とピラミッド構造との違い、新たな階層が生じることによる複雑性の増大とそれを縮減する運動のダイナミクスが動きが、インターネットやAI登場後の現在生じており、それを理解することが産業4.0などの動きを理解するうえで重要である。発表後に質疑応答が行われた。

研究会

主催	現代企業制度研究会
日時	2020年12月9日(水) 17:30~20:00
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	1. エコシステムのキーストーン戦略に関する考察 2. 八王子繊維産業の地域的集積の概論について

報告者	1. 野間口 隆郎 研究員(国際経営学部教授) 2. 王 玲玲 研究員(国際経営学部助教C2)
-----	--

1. 野間口隆郎研究員による報告は、生態系における「エコシステム」になぞらえた企業競争戦略について、戦略論に始まり、金融システムにおけるその応用可能性についていくつかのユニークな議論を展開された。参加者からも多面的な視点からの質問、議論があり、有意義な研究会となった。  
2. 王玲玲研究員による報告は、八王子の織物工業組合、関係企業などでの聞き取り調査、組合社・関連資料を基に、工場地帯構想がいかに形骸化した、また地域をめぐり参加者からは多角的な視点から質問、議論がなされ、有意義な研究会となった。

公開研究会

主催	現代政策研究会
日時	2020年11月25日(水) 16:00~18:15
場所	オンライン会議システム(Zoom)
テーマ	Free Riding and Workplace Democracy - Heterogeneous Task Preferences and Sorting

報告者	亀井 憲樹 氏 (Associate Professor, University of Durham)
-----	---

チーム生産におけるフリーライドと民主的な決定との関係を、実験室実験で検討するという論文の報告である。その場合、フリーライドはこれまでの研究では明確に探知されていなかったため、本研究では、怠けている時間(余剰の時間)に集いビデオを見てもらうだけで罰金を発生させるなどのインセンティブを用いている。また、事前二種類のリアル・エフォート・タスクを併せてもらうことで、被験者各人に行っている二つのタスクのうち、好きなほうという選択を持たせるとともに、それを表明してもらうこと、民主的決定がなされる案件の場合では、3人1組のグループ内で多数決によるタスクを決定するという設計である。モデルハザードと逆選択が絡み合ったモデル実験しようという意図的な試みで、フリーライドに関する結果が得られたことが報告された。論文の中で主な議論は、  
(1)実験計画を半年かかずに検討したエピソードが語られるなど、実験研究を遂行するうえで重要なことになっている。インフォーマルな意見交換をすることができた。  
(2)実験結果の解釈として、実際の企業でも得意なタスクに割り当ててあげることで、より生産性が高まるという含意があることが議論された。

研究会

主催	現代企業制度研究会
共催	東アジア経営研究会
日時	2020年11月7日(土) 13:00~15:00
場所	オンライン会議システム(Zoom)
テーマ	史 銘 氏(中国国際商会日中韓企業交流センター長)

報告者	中国から見たコロナ後の東アジアの企業連携・協力
-----	-------------------------

米中貿易戦争に加えてコロナ禍がグローバル経済に重大な打撃を与え、なお終息の目途がたない中、しかも、11月3日に実施されるアメリカ大統領選挙の結果が東アジアの主要国の間に重大な影響をもたらす可能性がある中、中国のJETROに相当する中国国際商会、日中韓企業交流センター所長の史銘氏が、これまでの日中韓を中心とする企業間の連携・協力の経緯を突撃して説明された。また、本報告は、東アジア経営研究会との共催で実施され、同学会では共通論題の冒頭の基調報告(「コロナ危機下の東アジアの経済・経営の課題」)の一つの報告として位置づけられた。中国、日本、韓国を中心とする東アジア各国の対外貿易・投資、サプライチェーンの変化、それともなう各国の産業構造の変化は、コロナ禍のもとで「非対称性」を生産・販出・流通・消費・投資・金融を推進する101型ビジネスを軸にさらに加速度的に進んでおり、それに伴って米中・米中・米中・米中の関係は変化し、互いに互いに影響を及ぼすことが予想され、本研究会メンバーをはじめ、多くの質疑がなされた有意義な研究会となった。

公開研究会

主催	社会会計研究会
共催	駿河台大学 地域創生会計研究会
日時	2020年10月25日(日) 13:30~17:00
場所	2103教室とオンライン会議システム(Webex)のハイブリッド型
テーマ	1. 市川 紀子 氏(駿河台大学経営学部教授・地域創生会計研究会代表) 2. 高木 啓司 氏(株式会社山下P.M.Cプロジェクト&コンサルティング・マネジャー) 3. 小高 昭嗣 客員研究員(中央大学名誉教授、中央大学経済研究所客員研究員)

報告者	1. 埼玉北西部・南西部地域における地域創生のための会計研究 —SDGsと地域創生におけるフンドの可能性— 2. 森林資源循環と地域課題—持続可能な森林と地域の実現に向けた丹波山村の取り組み— 3. MZ世代の発想とその潜在力
-----	--

2020年10月25日に、駿河台大学地域創生会計研究会との共催で、「地域創生と会計の役割」という大きなテーマで公開研究会を開催した。新型コロナウイルスの影響のために、多摩キャンパスおよびWebex会議室でのハイブリッド開催となった。研究機関だけではなく行政や企業等、外部から多数の参加があり、盛況な研究会となった。

研究会

主催	現代企業制度研究会
日時	2020年9月18日(金) 15:00~17:00
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	木村 剛 研究員(国際経営学部准教授)

報告者	日本人グローバルリーダーの発達段階における経験上の共通点に関する研究
-----	------------------------------------

木村剛研究員による報告は、海外留学経験者として日系企業での主要な職務を経験された方々を対象にアンケート調査を実施し、対象となった調査対象者の属性、留学経験などの経験、認識がどのように現れているかを多面的に検討したものである。研究対象者のピックアップ自体が限られた機会であるにもかかわらず、検討は、極めて精緻なものとなっており、参加者からは多角的な視点から質問、議論が出され、有意義な研究会となった。

研究会

主催	現代企業制度研究会
共催	国際戦略経営研究会、法政部会
日時	2020年9月14日(月) 9:00~15:00
場所	福井市地域交流プラザ602号室とオンライン会議システム(Webex)のハイブリッド型
テーマ	1. 沖 課長(福井市商工振興課) ※吉村氏会長 2. 木村 亮 氏(福井県中小企業診断士協会代表) 3. 竹部 美樹 氏(NPOエルコムユニティ代表) 4. 北島 啓嗣 氏(福井県立大学教授)

報告者	1. 福井市の産業と福井市の政策 2. 福井県の中小企業、福井の産業集積より 3. 学生連携(地域の担い手育成) —プログラミング教育、市民後援の視点から 4. 福井県の概況と産業、企業
-----	--

1. 福井市の産業と福井市の政策(福井市商工振興課課長、吉村氏)  
まず福井市における地理・人口・労働力・企業・産業構造、市の産業振興政策などの概況を説明の上、他の県庁所在地と比較し、就業機会や製造業の割合が多く、事業所数、就業者数でも繊維工業が上位にあり、また本調査のメインテーマである繊維産業振興政策等、新製品開発支援活動、人材育成補助金、おとろけ職人補助金などを中心に説明された。福井の繊維産業は高度な技術力、高度分野での推進力に富んでいることが紹介され、新規製品や技術の創出が活発にあり、繊維産業も度々IPスタイルイノベーションプロジェクトも推進されていることが紹介され、新規振興政策が地域経済の活性化に寄与する点が印象的だった。  
2. 福井県中小企業、福井の産業集積より(福井県中小企業診断士協会会長、木村亮氏)  
めがね生産全国第一の福井の産業集積を中心に福井の中小企業の特徴に関する講演を受けた。特に福井は、国内唯一の人口増加都市であり、めがね産業の30%への取り込みをはじめ、環境産地と環境流通の構造変化も及ぼされた。低価格チェーンの自強に資していること示された。また、企業が従来の受注生産の構造から消費者・販売店を巻き込むなど、自らイノベーションを促す変化がもたらされていることが示された。その他の産業では、工芸品や漆器などの分野における事例があげられ、中小企業の販路や消費地とのつながりを重視する取り組みも紹介された。また福井県中小企業「秘密」として地域の既存資源、新しいネットワークと旺盛な企業家精神の存在を指摘付け、新しいネットワークとして続く講演者竹部氏のパトロンシップ、紹介がなされた。  
3. 「学生連携(地域の担い手育成) —プログラミング教育、市民後援の視点から」(NPOエルコムユニティ代表、竹部美樹氏)  
福井県中小企業の、信用金庫、SAPジャパンやNECグループ、KDDI、インターネット大手・グローバル企業企業を含む企業連携があること、またレーザークッターや3Dプリンターなど、アイデアを自由に形にできる設備をはじめ、地元学生も指導する小・中企業のプログラミングの制度や、脳を含めた生命体は驚きを最小化するような行動を起しているが、マルチプロセスと呼吸は異なる境界を形成することがかわっている。これが階層化を起している。これは政策的にはどのような含意を帯びているのか。特に、階層化(レイヤー構造)とピラミッド構造との違い、新たな階層が生じることによる複雑性の増大とそれを縮減する運動のダイナミクスが動きが、インターネットやAI登場後の現在生じており、それを理解することが産業4.0などの動きを理解するうえで重要である。発表後に質疑応答が行われた。

4. 福井県の概況と産業、企業(福井県立大学教授、北島啓嗣氏)  
4.1 福井県の概況と産業、企業(福井県立大学教授、北島啓嗣氏)  
4.2 福井県の産業と福井市の政策(福井市商工振興課課長、吉村氏)  
4.3 学生連携(地域の担い手育成) —プログラミング教育、市民後援の視点から  
4.4 福井県の概況と産業、企業

以上4つの講演を受け、福井市は、環境産地と環境流通の構造変化も及ぼされた。低価格チェーンの自強に資していること示された。また、企業が従来の受注生産の構造から消費者・販売店を巻き込むなど、自らイノベーションを促す変化がもたらされていることが示された。その他の産業では、工芸品や漆器などの分野における事例があげられ、中小企業の販路や消費地とのつながりを重視する取り組みも紹介された。また福井県中小企業「秘密」として地域の既存資源、新しいネットワークと旺盛な企業家精神の存在を指摘付け、新しいネットワークとして続く講演者竹部氏のパトロンシップ、紹介がなされた。  
3. 「学生連携(地域の担い手育成) —プログラミング教育、市民後援の視点から」(NPOエルコムユニティ代表、竹部美樹氏)  
福井県中小企業の、信用金庫、SAPジャパンやNECグループ、KDDI、インターネット大手・グローバル企業企業を含む企業連携があること、またレーザークッターや3Dプリンターなど、アイデアを自由に形にできる設備をはじめ、地元学生も指導する小・中企業のプログラミングの制度や、脳を含めた生命体は驚きを最小化するような行動を起しているが、マルチプロセスと呼吸は異なる境界を形成することがかわっている。これが階層化を起している。これは政策的にはどのような含意を帯びているのか。特に、階層化(レイヤー構造)とピラミッド構造との違い、新たな階層が生じることによる複雑性の増大とそれを縮減する運動のダイナミクスが動きが、インターネットやAI登場後の現在生じており、それを理解することが産業4.0などの動きを理解するうえで重要である。発表後に質疑応答が行われた。

研究会

主催	現代企業制度研究会
日時	2020年7月1日(水) 14:00~17:00
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	1. 王 玲玲 研究員(国際経営学部助教C2) 2. 楊 川 研究員(国際経営学部助教) 3. 関林 享平 客員研究員(三菱商事テクノス(株)アドバイザー)

報告者	1. ブックレビュー: 『最新・経済地理学—グローバル経済と地域の優位性 The New Argonauts』 2. 読書レビュー/本論: 『最新・経済地理学—グローバル経済と地域の優位性 The New Argonauts』 3. On Optimal Strategy for Integrated Firms: The Price Squeeze 4. アヴィエーション・インダストリー: 航空機産業の経営戦略
-----	---

1. ブックレビュー: 『最新・経済地理学—グローバル経済と地域の優位性—』  
著者: サクセニアン、サクセニアン氏はハイテク産業地域の比較研究で高く評価され、著書には『環境・経済地理学』のほか、「現代の二都物語—比較論—」は復活し、レビューを行い、討論を実施した。  
2. 読書レビュー/本論: 『最新・経済地理学—グローバル経済と地域の優位性 The New Argonauts』  
著者: 王 玲玲  
報告者の王 玲玲氏は、環境産地と環境流通の構造変化も及ぼされた。低価格チェーンの自強に資していること示された。また、企業が従来の受注生産の構造から消費者・販売店を巻き込むなど、自らイノベーションを促す変化がもたらされていることが示された。その他の産業では、工芸品や漆器などの分野における事例があげられ、中小企業の販路や消費地とのつながりを重視する取り組みも紹介された。また福井県中小企業「秘密」として地域の既存資源、新しいネットワークと旺盛な企業家精神の存在を指摘付け、新しいネットワークとして続く講演者竹部氏のパトロンシップ、紹介がなされた。  
3. 「On Optimal Strategy for Integrated Firms: The Price Squeeze」  
報告者: 関林享平  
報告者が長年にわたりを職し、歴史的対象としてきた航空機産業の経営戦略について、その産業組織の特性を踏まえ、我が国の主要企業をはじめとする競争と提携の研究が詳細にまとめた。コロナ禍で経営破綻が明白かと思われたボーイングの諸問題も紹介され、極めて有意義な報告討論となった。

研究会

主催	現代企業制度研究会
日時	2020年7月1日(水) 14:00~17:00
場所	オンライン会議システム(Webex)
テーマ	1. フックレビュー: 『最新・経済地理学—グローバル経済と地域の優位性 The New Argonauts』 2. 読書レビュー/本論: 『最新・経済地理学—グローバル経済と地域の優位性 The New Argonauts』 3. On Optimal Strategy for Integrated Firms: The Price Squeeze 4. アヴィエーション・インダストリー: 航空機産業の経営戦略

報告者の王 玲玲氏は、環境産地と環境流通の構造変化も及ぼされた。低価格チェーンの自強に資していること示された。また、企業が従来の受注生産の構造から消費者・販売店を巻き込むなど、自らイノベーションを促す変化がもたらされていることが示された。その他の産業では、工芸品や漆器などの分野における事例があげられ、中小企業の販路や消費地とのつながりを重視する取り組みも紹介された。また福井県中小企業「秘密」として地域の既存資源、新しいネットワークと旺盛な企業家精神の存在を指摘付け、新しいネットワークとして続く講演者竹部氏のパトロンシップ、紹介がなされた。  
3. 「On Optimal Strategy for Integrated Firms: The Price Squeeze」  
報告者: 関林享平  
報告者が長年にわたりを職し、歴史的対象としてきた航空機産業の経営戦略について、その産業組織の特性を踏まえ、我が国の主要企業をはじめとする競争と提携の研究が詳細にまとめた。コロナ禍で経営破綻が明白かと思われたボーイングの諸問題も紹介され、極めて有意義な報告討論となった。